

もとは他人、の暮らしと商い

東京商店夫婦

写真 阿部了 文 阿部直美

53 組目

洋菓子セキヤ

洋菓子店(荒川区西尾久)



関矢尚尊さん
昭和57年(1982)、
東京都荒川区生まれ

関矢紀子さん
昭和57年(1982)、
神奈川県大和市生まれ

紀子 私たち、高校の時の先輩、後輩なんです。柔道部に入ったら、1つ上に主人がいたんですよ。柔道って、普通に男女一緒に練習するんですよ。よいしょって投げたりして。私、大学でも柔道が続けましたけど、誰かと組んでやる練習は主人が一番やり易かったんですよ。尚尊 柔道やってたおかげで、自転車とかで転んでも怪我しないんですよ。僕、大学を卒業した後はシステムエンジニア(SE)の仕事に就いたんです。紀子 私は薬剤師になりました。ただ、結婚して長男を出産するタイミングで仕事を辞めたんですよ。その時お義母さんが、「この店でアルバイトする？」って声をかけてくれたんです。赤ちゃんと抱えて遠方に暮れている感じに見えたらしくて、ちょっと外に出てあげた方がいいんじゃないかって思ったらしいんです。私が店に出ている間は、義母が長男を見てくれました。働き始めると、地元の方がいっぱい来てくれる店なんだなあ、と改めて思ったんですね。でもいつか義父が店をやれなくなったら、そこで途絶えちゃう。「あなたはその大丈夫なの？」って、主人に聞いたんですよ。

尚尊 僕は子どもの頃から店を継ぐ気がなかったんです。ただ7年やったSEの仕事は面白くはあっても、考えるところもあって。結局29歳でこの道に進もう、と。店は祖父が始めたんです。戦前、長野県から出てきた祖父は、新宿の中村屋さんで修業して、戦争で満州に行った後は和菓子の卸を始めました。職人10人くらいが住み込みで働いていたそうです。でも商売が難しくなった時、祖父の店から他の洋菓子店へ修業に行った人が、関矢さん、これからは洋菓子

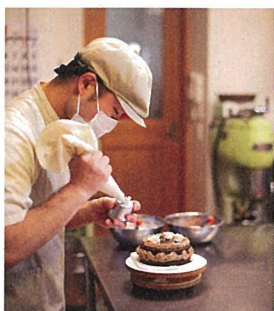
きなんです。子どもの頃から食べてますけど、やっぱり美味しいなって思う。紀子 ケーキ屋って、お客さんがわくわくした気持ちで来てくれる場所なので、こちらも素直に笑顔でいられるからいいなあと思うんですよ。私、それまで薬局で働いていたので、病气やケガをした人たちに笑顔で接けにもいかなかったし、言葉にもすぐく気を悪くなくちゃいけないって難しかったんです。尚尊 ケーキって特別な日のもので、みんなの楽しい記憶と結びついていくのがいいですよ。僕、最初はよその店に修業に行っていたんです。ただ、あまりにつくって3カ月後には体重が10kg以上減っていました。製菓学校を出ていないので、道具の名前さえわからなかったんですよ。その後、父の下で経験させてもらいました。とにかく、感覚で覚えるしかないんですね。ただやっぱり子どもの頃から親を見ているから、大変さは知っていました。

紀子 付き合っていた頃も、クリスマスはデートしたことがなかったです。尚尊 小、中学生の頃から、イチゴのヘタを取ったり表面以外のクリームを塗ったり、クリスマス前は家族総出で寝ないで手伝いました。正月はお年賀で焼き菓子が売れるんです。母と妹と一緒に、菓子を包装しながら除夜の鐘をよく聞きました。紀子 私も結婚してすぐ、除夜の鐘クッキーを経験しました。大晦日に必死にクッキーを袋詰め。とんでもない所に嫁に来ちゃったって思いましたよ。でも今はさすがに従業員を雇っているんで、除夜の鐘を聞きながら皆でクッキーを詰めることはしません。計画的に物事を進められるようになったよ。尚尊 週休1日ですけど、普通のサラリーマンよりは家族と一緒にいる時間が持てるので、その点もいいなと思ってます。厨房の窓から、小学生の息子たちが帰ってくるのを見られるんですよ。働き加減とか、あれ？元気がないなってわかるんですよ。そんな時は、すぐに声をかけられます。長男がホワイトデーにクッキーを作りたいって言うので、ここで一緒に焼いたこともあるんですよ。

クリスマスはデートしたことがなかったです

洋菓子セキヤ

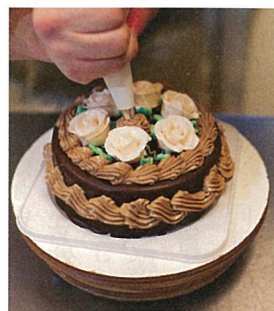
1968年創業の洋菓子店。カルピスバターを使うバタークリームはすっきりとした味わいでファンも多い。ダミエ(ロング) 2300円、セキヤロール1900円、いちごタルト440円、おぐっこシュー 250円など。●JR高崎線・宇都宮線尾久駅から徒歩5分。10～19時、水休。荒川区西尾久7-10-3 ☎ 03・3894・6628



「毎日でも食べたいケーキを」、尚尊さんのモットー。



笑顔で接客。常連さんの中には親子3代で通ってくれる人も。



バタークリームにチョコレートをコーティングした誕生日ケーキ。